

笹川保健財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2020 年 3 月 9 日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2019 年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

在宅生活を支える多職種協力と市民への啓発活動

活動団体名： 彩の風訪問看護ステーション

活動者（助成申請者）名： 佐伯 聡子

I. 活動目的

日本は世界において類をみない急速な高齢化社会に向かっている。その中で行政は在宅生活継続のために医療・介護連携を推進し地域包括ケアの構築に力を注いでいる。その過程を世界が注目しているが実状がある。行政との協同は重要であるが、小回りの利く地域の力を自分たちで持たなければいけないと考える。そこで地域のケアに関わる多職種が互いの垣根を超えた繋がりを可能とする語り場・学び場・相談場を開催することで事業所を超えた地域づくりの場となるプラットフォームが必要と考えた。等ステーションが対象とする南区・桜区は人口 28 万人で高齢化率 22.89%と全国区平均でみると現在の高齢化率は低いが、しかし今後は加速度つけて高齢化が進んでいく地域となる。地域ケアのネットワークが細やかに臨機応変に稼働し必要性とその上強くなることで地域での取り残される方が出ないような情報ネット作りに繋がっていくと考える。

会名の『彩り紡ぐ会』には

彩り：彩り豊かな人生をこの街で生きる

紡ぐ：言葉を紡ぐ・愛を紡ぐ・心紡ぐ・縁を紡ぐ・想い紡ぐ・物語を紡ぐ・命を紡ぐ・
夢を紡ぐ・人生を紡ぐ・幸せ紡ぐ・関係を紡ぐ

の思いを込めている。まずは多職種が繋がり多々のケースの解決方法を共有できる地域となり、専門職だけでなく地域住民が死生観を含め話し合える地域づくりの場を目指し、安心して生きる地域づくりを目的とする。

そこで今年度は会の周知を目的とし専門職の語り場・学び場・相談場になることに力を入れ 4 回/年のセミナーを企画した。

II セミナー開催の準備・広報活動

準備は地域啓発担当者 2 名で、広報活動はチラシ作成し近隣のケアマネ事業所・ヘルパー事業所・地域包括支援センター・訪問看護ステーションに直接配布説明し広報活動を勧めた。また、ステーションのホームページに掲載しセミナーの参加申し込みを可能とした。会場は近隣の開業医（木村医院）が所有する運動指導教室の部屋を借り協力を得た。場所の選定の理由は近位に地域包括支援センターや複数件の介護支援事業所があり仕事の合間に集まりやすいと考えた。時期は月末月初の多忙期は避け、時間はワークライフバランスも考慮し勤務時間内で開催することで子育て中の多職種の方も集まりやすい時間帯とした。

III・開催概要

時期	セミナー内容
6 月	オムツの中のスキンケア

7月	訪問看護の活用法
10月	認知症の方へのかかわり方
1月	嚥下障害の方へのかかわり方

IV 実施経過

1 第1回～第4回セミナーの開催状況を下記に示す

	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	6月19日	7月24日	10月23日	1月22日
講演内容	オムツの中にスキンケア	訪問看護の活用法	認知症の方への関りまた	嚥下障害の方へのかかわり方
講師	訪問看護師 皮膚排泄認定看護師	訪問看護師 訪問看護認定看護師 緩和ケア認定看護師	市立病院看護師 認知症認定看護師	市立病院看護師 嚥下接触認定看護師
参加者	13名	26名	20名	21名
アンケート回収率	92.3%	95.8%	100%	95.2%

V活動の成果

セミナー4回（定員20名）を通して延べ80名が参加した。定員を超える参加者があるセミナーもあった。セミナー後半の質疑応答では活発な発言がみられた、終了後に実施したアンケートの回収率は高く自由記述では様々な感想意見をいただいた。

1. 第1回（6月19日 16:00～17:00実施）参加者13名

他訪問看護ステーションの皮膚排泄認定看護師を講師とし、テーマは「オムツの中のスキンケア」①皮膚の解剖②オムツの選び方③交換方法・漏れ対策・スキンケア等々の内容の話があり、参加者は訪問看護師・ケアマネジャー・ヘルパー・地域包括支援センター職員等があり地域での顔の見える関係性の構築の一因となった。アンケートにはオムツの正しい装着方法の大切さを改めて確認できた、たくさんのオムツの種類の中から利用者にあった利用時間によりオムツの種類を選択方法・コスト面を知ることができた。実践の場で明日から役に立つこのコメントが得られた。

2. 第2回（7月24日 16:00～17:00実施）参加者26名

当ステーションの認定看護師が講師となり、テーマ「訪問看護の活用法」とし①訪問看護活用法のワンポイント（訪問看護にできること・利用するには・介護保険と医療保険・

特別指示書の活用方法等) ②具体的事例を通しての(褥瘡・フレイル・独居・癌の終末期)を話した。参加者は訪問看護師、ケアマネジャー、地域包括支援センター職員・看護学生があり、アンケートからは訪問看護の導入時期がいつなのかがわからなかったが、なんでも相談してくださいの言葉からこれから気軽に相談できると思い安心できた。適切な時期に看護を介入することで創の悪化や症状の安定が得られると感じた等のコメントが得られた。

3. 第3回(10月23日 16:00~17:00実施)参加者20名

市立病院の認知症認定看護師を講師とし、テーマは「認知症の方へのかかわり方」内容は①認知症の理解②チームで見ていく必要性③パーソン・センタード・ケア④事例を通して話された。参加者は訪問看護師・病院看護師・ケアマネジャー・理学療法士であり、体験研修でわからないという不安な気持ちを体験できた。先入観を持たない。その人に関心を持つことの大切さ、一人の人間としての関りとのコメントを得た。

4. 第4回(1月22日 16:00~17:00実施)21名参加

市立病院の摂食嚥下障害看護認定看護師を講師とし、テーマは「嚥下障害の方へのかかわり方」で内容は①高齢者にとっての食事の意義とは②清浄な嚥下のメカニズムについて③安全な食事姿勢について④嚥下性肺炎について話された。参加者は訪問看護師・病院看護師・ケアマネジャー・地域包括支援センター職員・理学療法士・認定看護師実習生であり、アンケートからは嚥下のメカニズムがわかりやすかった、食事姿勢・美味しく見せる工夫の大切さの確認できた。話すこと笑うことの大切さ改めて知ることができた今後は訪問したら利用者家族を一度は笑わせることとします等のコメントが得られた。

ステーション開設2年目の今年度はスターションの周知とステーションの想い(安心して住み続けられる街づくり)の他事業所と共有することも目的の一つではあったが4回のセミナーを通し地域づくりに力を入れることを地域の事業所に感じ取っていただいている。実際当ステーションの介入にはつながらなくても相談が増えてきている。例えば認知症が疑われる方の病院のつなげ方、他ステーションと利用者のかかわり方の問題点をどのように他ステーション管理者に伝えれば上手く理解してもらえるか?退院するにあたり訪問看護を導入した方がいいか?などセミナー開催により日頃の問題点や困りごとを気軽に相談しやすい関係性の構築に繋がったと考えられる。

VI 今後の課題

多職種がそれぞれの専門性を駆使し信頼して協同することで地域ケアのネットワークが強くなり多々のケース(増え続ける独居・認知症・老々介護・精神・引きこもり等)にも対応できる地域作りにつながっていくと考える。そのためには更なる専門職の質向上と行政と

のかかわりやボランティア・民生委員とのかかわりの構築方法を確立していく必要がある
このことを課題とし多職種参加の職種の幅を広める方法を検討していく。

また、死生観を含め地域の方が語れる場になれるように「彩り紡ぐ会」を更に発展させる
ことでこの街で安心して生きることができる街づくり繋がるように会を継続して続ける。

VII 活動成果等の公表予定

検討中

VIII 謝辞

この度の活動にあたりご協力を頂いた、木村医院そして助成を頂いた公益社団法人笹川
保健財団に心から感謝いたします。